

# ケチュア語のなぞなぞ

——ペルー・クスコ地方を中心に——

青 木 芳 夫  
アンヘリカ・パロミーノ 青木

## 一 はじめに

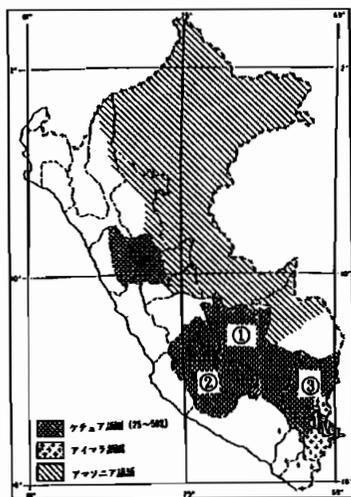
本稿の目的は、南米ペルー・アンデス南部のなぞなぞを、同地方の代表的な土着言語であるケチュア語のまま紹介することにある。ケチュア語ではなぞなぞは「watuchikuna」ないし「watuchinakuy」と呼ばれ、ペルー・クスコ地方では「imasmari, imasmari」<sup>(1)</sup>、同アヤクーチョ地方では「Imayñapas, haycayñapas」という呪文のような呼び掛けで問答が始められる。ともに「何だろうな、さあ」というほどの意味である [Navarro de Aguilera 1947: 33]。

今日のペルーでは、ケチュア語は、一九八一年の国勢調査によれば五歳以上の人口のうち二二パーセントに当たる三一八万人により日常的に話されている。そのうち、七・六パーセント、一一一万人はケチュア語のみを話し、一三

パーセント、一八四万人がアンデス山脈を中心とする農村で暮らしている [付図参照]。

また、法的には、一九七五年五月二七日付の政令によりケチュア語はスペイン語と並ぶ公用語に認定されたが、実効を伴わないまま数年が過ぎ、一九七九年七月一二日に発

図1 土着諸語の分布



①クスコ県、②アヤクーチョ県、③プーノ県  
(出典) 青木 1987a: 72

布された現行のペルー憲法（今年四月フジモリ大統領により停止される）の第八三条ではペルー全体の公用語であるスペイン語に対してケチュア語は「地域的公用語」と規定された。近年では、クスコ・アブリマック・マドレデイオスの三県からなる広域行政圏「インカ」がケチュア語を圏内の公用語に指定し、地名標識等もスペイン語とケチュア語を併記するにいたっている。

ペルーでは、土着言語の復権は牛歩にも似て遅々たるものにはすぎないが、プーノ県を中心に、旧西ドイツからの技術協力をえて七〇年代、八〇年代に進展した二重言語・二重文化教育の実験〔註\* 1987a〕や、著名なインディヘニスタの名を冠した、クスコ市にあるドミニコ会系の研究所<sup>へ</sup>による土着言語による出版事業等には評価すべきものが多々ある。本稿もまた、このような土着言語の復権、土着言語による出版事業に微力ながらも寄与したいという筆者らの希望から生まれた。

ところで、チリのスペイン語のなぞなぞ (adivanzas) を採集・分析した三原幸久氏は、その内容から「形状なぞなぞ」「考え落ち」「音のおもしろさ」「アルファベットを答にしたもの」等に大別し、また「二重に意味を持った謎」

とか「たくらんだ謎」と呼ばれる性的な含みのあるなぞなぞに人気がある、と指摘している〔川畑 1980 : 360-363〕。これを指標にペルー・クスコ地方のケチュア語のなぞなぞを見るならば、もちろん「形状なぞなぞ」が圧倒的に多いのだが、例題⑬や⑭のように「考え落ち」の例や、例題⑯や⑰のように「音のおもしろさ」の例などもある。また、「アルファベットを答にしたもの」が一例（例題⑱）しかないことは文字言語としての発展を阻まれてきたケチュア語の歴史を反映しているとも解釈できよう。なお、性的な含みのあるなぞなぞも例題⑲や⑳のように少なくともはないのである。

以下では、実際のなぞなぞを列挙することとするが、本稿のなぞなぞは筆者らが直接採集したのではなく、主としてアンデス司牧研究所が採集したもの〔IPA n.d.〕に若干他のもの〔Navarro de Aguilá 1947 : 38-41. Alvarez Quispe 1988 : 76-78〕から補充し、再録したものである。

なお、ケチュア語をどのように表記するか、つまり正書法の問題は政治的な性格を内包するもので〔註\* 1987b〕、それ自体非常に興味深いテーマではあるが、本稿では、一

九七五年一〇月にベルー政府により制定された正書法(教育大臣令第四〇二三―七五号)のうちクスコ州プーノ地方に関するものにはほぼ準拠している。また、なぞなぞの中にはアヤクーチヨ地方のケチュア語のもの [Navarro 1947] もいくつかあったが、本稿ではクスコ地方のケチュア語に書き替えてある。

そしてまた、スペイン語からの借用語については、今ではすっかりケチュア語に同化し、ケチュア語風に発音されるものもあるが、本稿ではスペイン語のまま綴ってイタリックにするか、あるいは角カッコの中にスペイン語を併記してある。ある意味では、これまで抑圧されてきたケチュア語の歴史と現状を象徴するものと受け取ることも出来よう。

## 二 なぞなぞ二二〇

- ① *niatia runisonqo* (石の心臓を持つ未亡人)  
 (答) *acethana* オリーブの実<sup>(3)</sup>
- ② *huk chakata k'umu k'umu machulachakuna chinpashanku* (背中の曲がった老人たちが橋を渡って  
 くる)

(答) *achogcha* アチョクチャ<sup>(4)</sup>

- ③ *yuraq p'atalónmiyoq puriq wayna* (白いスボンで歩く若者)  
 (答) *algamari* チュウトロ [タカ科、足の部分の毛が白く  
 ぼい]

- ④ *huk ch'úñurtin, iskey laphachurtin, iskey pinchintin, tawa k'aspintin, huk maywipantin* (チューニ<sup>(5)</sup>が一つ、パンタするものが二つ、光るものが二つ、棒が四つ、紐が一つ)  
 (答) *alqo* 犬

- ⑤ *llapa orgoq ahusi* [= *ajos*]nin (山々のニンニク)  
 (答) *anias* スカンク

- ⑥ *altu* [= *alto*]n *phawaq lata pisqo* [おたは *pitchinku*]  
 (高く飛ぶ任製の鳥)  
 (答) *añón* 飛行機

- ⑦ *ch'ullan ñawilla llank'gyman atipakunku* (目が一つだけ、でも働こうとする人々)  
 (答) *awuhal* [= *aguja*] 針

- ⑧ *haqay orgoq patamanta lhiphipimushan* (あの山の上からあひるが光るあの)

(答) *bandera* 旗

- ⑨ huk tanka runacha p'uru wiksacha, *lala kasku* =  
casco]cha (金属ヘルメットをした、太鼓腹の、背の低い人)

(答) *cerveza* ビール瓶

- ⑩ qanñataq wayqellay, nogañataq wayqellay (今度はおまえの番だ、兄弟、次がわたしの番だ、兄弟)

(答) chaki 足

- ⑪ taytan *cornetero*, maman tarraq tarraq (父親はマン、手、母親は早足)

(答) *chiwchikuna* むちり

- ⑫ siwk nispa panpapi pararaqay sara hach'irayashan (おれはいつかおれを敬ぶが、おれはいつかおれを敬ぶ)

(答) *ch'aska* 星

- ⑬ Taytachaq ch'uya golgen, yupaychis nisqa mana yupay atina, apakuychis nisqa mana ogariy atina (数えよ、よ、よ、よ、数えられず、拾えよ、よ、よ、よ、拾えよ、神様のお金)

(答) *ch'aska* 星

- ⑭ huk t'ogonta haykun hinaspa p'isqa t'ogoman

ch'egerin (一つの穴から入り、五つの穴に岐れるもの)

(答) *guztes* 手袋

- ⑮ huk sach'a ukhupi asunleho] = azulajo] asnu] = asno] waganushan (木の間に叫んでいる青みがかったロン)

(答) *hach'a* 斧

- ⑯ wichayman urayman tiranku delogawaq ñawichayoc, tras tras chakichayoc (上を下へと歩き回り、目は天を見、足は急ぎ足)

(答) *hak'aqllu* ヤマシキ (山雞)

- ⑰ ñampa urampi ñampa hawampi t'awi papacha (道の上下も道の上下も、おれのおれしたジャガイモがある)

(答) *hanp'atu* カヘン

- ⑱ ch'unchulsapa, misk'illa waqraq payacha (おれとおれ、腸がたくやんえんえん老婆)

(答) *harpa* フルン (ノープ)

- ⑲ qhopo machucha, q'omer kirucha (歯が緑で猫背の老人)

(答) *ichhuna* 草刈り鎌<sup>(6)</sup>

- ⑳ taksalla kurku machucha, kirunpa atipasgan ñank'apakun chakra] = chakra]pi (種一杯おれ、種)

れ毛の老人が畑の仕事を手伝っている

(答) ichhuna 草刈り鎌

㊤ hawanpi papa wachu, ukhupni gloria (外ではシヤ

ガイモ畑、内は栄光)

(答) iglesia 教会

㊦ yuraq kani, yuraq hamuni, wakchapas, qhapapgas

noqata munawanku (わたしは白う。白うままやっ  
てきた。貧しい人もお金持ちもわたしを欲しがる)

(答) kachi 塩

㊧ hatun qada patamanta oqe asnu [=asno]

wagayamushan (大きな岩の上で灰色のロンが鳴ら  
う)

(答) kanpanal [=campana] 鐘

㊨ huk ch'in wayq'ochapi asul [=azu] asnu [=asno]

wagashan (静かな谷で青う色のロンが鳴らう)

(答) kanpanal [=campana] 鐘

㊩ tuta kargal [=carga]ntin p'unchay karuna [=carona]

llantin (夜は荷物があり、昼は鞍のたひのふ)

(答) katre [=catre] ヲツレ

㊪ hatun panpapi, kuskan t'antacha wikchi urayashan

(大きな野原にパンが半分落ちている)

(答) killa [半] 月

㊫ huk llipn panpachapi partin t'antacha (輝く野原

に半分のパン)

(答) killa [半] 月

㊬ puka tiyanapi yuraq yuraq sipaskuna tiyashanku

(赤う席と真う白な娘たがな座らう)

(答) kiru 藪

㊭ qori kiska mana sik'iy atina (黄金の刺は抜きたく

う)

(答) kisa イラツサ (刺草)

㊮ warangamanta mikhuna (千すう食うふ)

(答) kiwna キヌン

㊯ mikhun askha aychata, askha papata sapa p'unchay,

ichaga mana wirayanchu, astawan tulluyan (毎日食  
やシヤガイモをたくちん食うても太らず、反対に瘦せる

ふ)

(答) kuchillu [=cuchillo] ナイフ

㊺ altu [=alto]pi kurus [=cruz],panpapi suy'u rumi

(高では十字架、野原では細長う石)

(答) kuntur コントウ(11)

③④ chaynepipas kaynepipas q'epinta sagekun (おや  
ふいふふに荷物や置つていへやの)

(答) lakawiti コモウタン

③⑤ qaqaman chayan mana wañunchu, mayuman  
chayan mana wañunchu, ninaman chayan mana  
wañunchu (岩と衝突しても死なず、川の中に入っても  
死なず、火の中に入っても死なないもの)

(答) llanthu 影

③⑥ chinpan purikug llaq'amasi (前を歩く同郷人)(12)

(答) llanthu 影

③⑦ rinki rinki qatisunki (あなたは行く、あなたは行く。  
あなたが行いて行く)

(答) llanthu 影

③⑧ huk *wida* manaña hap'iy atina (おの捕まえておの  
も出来ない未亡人)

(答) llanthu 影

③⑨ huk parpachapi ñañu washhacha wikch'urayashan  
(野原に捨つられたつる細い繩)

(答) mach'aqway 蛇

③⑩ ñanpa hawanpi, ñanpa uranpi, t'ipi washhacha  
(道の上を道の下にゆる繩の端)

(答) mach'aqway 蛇

④① paya loqheyakun, machu upallachin (老婆が暴れ、  
老人がそれを鎮める)

(答) manka, wisllantin [煮え立こ] 鍋としゃもこ

④② puka uyaga, tawa songoda (真っ赤な顔に心臓が四  
つ)(13)

(答) *muzzana* りんじ

④③ ñannintan purin, takispan kawsan, kawsaytan  
takin, mana kutiqpaq uraykun (道に沿って歩き、歌  
いながら暮らし、暮らしを歌い、下って行って、決して  
戻らないもの)

(答) mayu 川

④④ ñanllata goyway, maykamapas chayallasqmi (道  
を開けておくれ、どこまでも行く)

(答) mayu 川(14)

④⑤ tiyakun q'epiyog, puririn mana q'epiyog (重々  
と座るが、軽々と歩くもの)

(答) michi 猫

- ④⑤ huk t'ogonta haykun, phisqa t'ogontaraq lloqsimun  
 (一) の穴から入り、五) の穴から出るもの  
 (容) *misiones* 指先のなご手袋
- ④⑥ muyuspalla qolqe tariq (へるへる回) だひで金を  
 出た)  
 (容) *molino* 製粉機<sup>(15)</sup>
- ④⑦ muyuspalla, muyuspalla akayakamun, muyuspalla,  
 muyuspalla hisp'ayakamun (へるへる回りながらふんふ  
 ふんふ、へるへる回りながらおしこする)  
 (容) *molino de agua* 水力製粉機
- ④⑧ puka ruui mana oqariy ariña (捕まえられる赤  
 じり)  
 (容) *nina* 火
- ④⑨ ichhu ichhu ukhupi, p'aqta gara q'entisqa (コラ  
 の中び小せうなこつじる赤膚の皮)  
 (容) *ninri* 耳
- ④⑩ ichhu, ichhu moqopi, hoq p'aqta gara k'uyurusqacha  
 kashan, ichhu sikipi (イチヲ草の丘の麓にある赤膚の  
 へるへる巻つじるもの)  
 (容) *ninri gara* 耳鼓
- ④⑪ chunpi hina chutarikug (昔のよびと伸びるもの)  
 (容) *nān* 道
- ④⑫ Daqtaq watun, orgoq chunpin (村の紐、山の帯)  
 (容) *nān* 道
- ④⑬ rini sageni, rini sageni (進むほど後を残し、また  
 進むほど後を残すもの)  
 (容) *nān* 道 [のり]
- ④⑭ wakal [= vaca] qatin qatin, ichhu t'iran t'iran (牛  
 を追いだしながら、イチユ草を根元から引き抜いてしま  
 う)  
 (容) *nāqch'a* 櫛<sup>(16)</sup>
- ④⑮ huk ichhu ichhu qhatapi yana wakakunata gatisqarpi  
 k'rispincha maqt'a chakinta p'akikun (イチヲ草の丘  
 で黒い牛たぐを追ひ掛つじるとき、クリスピンとじう  
 若者が足を折った)  
 (容) *nāqch'a* 櫛<sup>(17)</sup>
- ④⑯ huk orgollaña har'ashan, iskay salqa turuj = toro]kuna  
 takanarukunamanta (二頭の野生の牛が角で喧嘩する  
 ので、一) の山がそれを防いでいる)  
 (容) *nāwi* 田

⑤7 amalla kay mogo karmanchu, kuskallapunin kaswan

(ウ)のウがなかなだ、いじも一緒でおれるのだが)

(答) ñawi 田

⑤8 p'unchay espejo, tuta gara punku (何は鏡だが、夜は皮鞭の上)

(答) ñawi 田

⑤9 khuyaspallan rantiykuspa, runtuntapas llaqwanchis  
(答)てて風うて、朝まで眠る)

paltay てボカエ

⑥0 aychayta mikhuy, khulluyta llaqway (私の夜を食  
食へ、私の丸いものを食せ)

(答) paltay てボカエ

⑥1 yuraq yuraq llanp'unapi yanakuna puñushanku  
(真の白なシミで眠る、黒い牛を)

(答) paqay ツムカ

⑥2 huk t'ogonta waykun, iskay t'ogonta lloqsin (一  
この穴から入り二この穴から出る)

(答) pantalon スボク

⑥3 panpaman wikch'unki, mana phakrikunchu,  
unuman wikch'unki phakrikun (床を落して、誰

れないのだ、水に入ると割れるもの)

(答) papel 紙

⑥4 ñawiyogpa reqsisgan, yachayniyoq wiraqocha,

manan purinchu, manataq rimanchu (田明かか知  
らない物知りの紳士だが、歩きもしないし、話しもしな  
いもの)

(答) patarasqa gelga 本

⑥5 huk qhoppu machucha w'ollata yachayniyoq (コ  
ンの味だけが分かる猫背の老人)

(答) piki 蕨

⑥6 ichhu ichhupi yana waka [= vaca] kuna, yuraq  
wakel [= vaca] kuna (コラの牛と黒い牛や白い牛)

(答) piki, usa 蕨、シメツ

⑥7 kaypiña haqaypiña, q'epirinaq patampiña (ウロ  
ウロと歩くと歩くと、ケピリナ布の端を)

(答) p'iza ハートナップル

⑥8 inti hnan q'oñisunki, wawawantaq walqasunki  
(太陽のように暖め、赤ちゃんもくれるもの)

(答) puñuna ヂシム

⑥9 intin puñun, killan rigch'an, runatan kunpan,

hawintan kirpan (太陽は眠り、月は目覚める。人を倒し、目を開かせやせ)

(答) punuy 眠気

㉓ muyuspalla wiksayakuq (ぐるぐる回るだけで妊娠するもの)

(答) puska 米巻

㉔ muyuspalla muyuspalla, chichuyakuq (ぐるぐる回るだけで妊娠するもの)

(答) puska 米巻

㉕ puna beatacha, ichhu kapilla [=capilla]cha (高地の修道士だ、イチチュ草の聖堂)

(答) pisaga ちたね yutlu シヤロ(註) (鷓鴣)

㉖ asktha soldatochakuna puka umayoc rinku guerraman yana umataq kutinpunku (頭の赤い兵士たちが戦争に行き、頭が黒くなって帰還する)

(答) phuspuru [=fosforo] マッチ

㉗ chinpay puriq *paizarito* (わたしの向うを歩く同郷人)

(答) phuyu 雲

㉘ huk mach'ay ukhumanta puka turu [=toro]

qhawamushan (木陰の中から赤い牛が覗いている)

(答) gallu 牛

㉙ yuraq kancha ukhupi puka *bandera* laphapashan (白い罫の奥ではためく赤い旗)

(答) gallu 牛

㉚ mama killa waran, tayta inti paskan (お母さん月が結び、お父さん太陽が解く)

(答) gasa 霜

㉛ ñanpa uranpi, ñanpa hawanpi golpe tinyacha (道の上でも銀の小太鼓があるもの)

(答) gasa 霜

㉜ mayutan chinpani, hatun gochatan chinpani, orgon q'asantan wasapani, mana simiyoc kani, rimayataq yachani (川を渡り、海を渡る。山や谷を越える。口はないが、話すことができる私)

(答) gelqa 手紙

㉝ wawantaq chancharithacha mamantaq kharka silicha (娘のほうは尻軽で、母親のほうはお尻が汚れ)

(答) qollota 石山(註)

㉓ wasi wakal [= vaca] mana inti rikud (家の中ごうし)  
太陽を見たことのない牛)

(答) qowi クイ<sup>(2)</sup>

㉔ haykun lloqsin, haykun lloqsin, wixch'uy tukupun  
(入ったり出たり、入ったり出たり、捨てること止まること)

(答) qhoña 鼻水

㉕ huk phiña turu [= toro]cha k'aspi chupacha (棒  
の尻尾の、勇猛な牛)

(答) rogotu 大型のトウガラシ<sup>(2)</sup>

㉖ phiña payacha k'aspi chupacha (尻尾が棒の、怒つ  
つゝる老婦)

(答) rogotu 大型のトウガラシ

㉗ phiña phiña machucha k'aspi chupacha (尻尾が棒  
の、勇敢な老人)

(答) rogotu 大型のトウガラシ

㉘ huk mankapi, iskay niraq mikhuna (一〇の鍋と二  
種類の食物)

(答) runtu 卵

㉙ wasi ñut'umalla perqayoc, mana punkuyoc, mana

t'ogoyoc (扉も窓もなく、壁の薄い家)

(答) runtu 卵

㉚ puka puka runacha, mana oqariy atina (赤く赤く  
色の人び、手で拾うことが出来なうさぎ)

(答) sansa 糞

㉛ huk t'ogopi k'achanpakuna waqtanaykushaku (穴  
の中でカチャンパ<sup>(2)</sup>の踊り手たちが踊り合つてゐる)

(答) sara hank'ay トウキロンを煎つてゐるうさぎ

㉜ leche marka hina qhawapayana (ミルク鍋を見ること  
を意味する単語) <sup>(2)</sup>

(答) sipas p'asña 少女

㉝ runi sikipi askha yanakama p'iti sintural [= cintura]  
sipaskuna aphanllaña puriyushanku (口のトウガラシ

一心ど歩つてゐる、細い腰をした、たべやうの黒いほつ  
若者)

(答) sisi 蟻

㉞ yuraq chukchachayoc, q'omer pollerachayoc (口  
ふ髪と縁のスカート)

(答) siwilla [= cebolla] タマネギ

㉟ sikiykipi ch'apuyoc, kasqanki waqachiwasqanki

(お尻でもしゃもじやした髪があり、私を泣かせるもの)

(答) siwilla[=cebolla] タマネギ

㊤ huk mag'acha, q'omer *pantalón*cha, puka kamisa

[=camisa]cha, chikchipa umacha (緑色のズボンと

赤いシャツ、ネージュ短衣の髪をした若者)

(答) siwilla[=cebolla] タマネギ

㊦ imaymanaman churana (何とでもいふもの)

(答) sui 名前

㊧ tuta qhari p'unchay warmi (夜は男、昼は女)

(答) Tayta kural[=cura] 神父様(81)

㊨ sikillaymananta tangariway, maykamapas rishallaqmi

(後から押しつづけたら、さうおどろかすこと)

(答) tikras[=ijeras] ちねち

㊩ manan saq'a chaka, taytan fiero machu, wawantaq

ch'ullan hawi (母親は足を開き、父親はあひたで息

子をいひ出)

(答) tikras[=ijeras], *dedai*, awruha[=aguja] ちねち

み、指抜き、針

㊪ samakuypas, punukuypas, qellakuypas, llank'aypas,

marq'ayllanpin hap'irayasunki (休んだり眠ったりす

るときにも、怠けたり働いたりするときにも、常にな  
たを腕で抱えてくれるもの)

(答) tiyana 肘掛椅子

㊫ yana gochamantan q'ellu muyukuna lloqsimumshan

(黒い湖から黄色の丸ものが出づべし)

(答) tortilla トンテリヤ(82) [揚げた]

㊬ iskay k'aspichakunapi huk kurucha purishan (二

本の棒の上で一匹の虫が歩へ)

(答) *tyem* 列車

㊭ hawampi achakaw, ukhumpi anañaw (外は「恐ろし」

内は「おそろし」)

(答) *hawa* ウチロサボテンの実(82)

㊮ yuraq p'achawan churarusqa haykun, lloqsimpuntaq

ch'umpi p'achawan churaykusqa (白く服を着り入り、

栗色の服を着り出づべし)

(答) t'anta ン

㊯ muyu muyun kani tegsimuyu hina, nogawanga

manan obispo kanchu (私は世界のように丸くて回転

するもの。私と一緒に司教はなご)

(答) "u" 母音「ウ」(82)

㊟ *puka payacha k'aspi chupacha* (尻尾が棒の、赤く  
なぐたき液)

(雑) *uchu* ヌィチム

㊟ *piña payacha k'aspi chupacha* (尻尾が棒の、怒い  
ぶくの液)

(雑) *uchu* ヌィチム

㊟ *ñanllayta ruwayqa maykamapas risaqmi* (狼々闊  
た、ヌルキトメに、)

(答) *unu* 水

㊟ *tras tras chakicha fraxada q'epicha* (たく足、毛  
布を揺ぶ、)

(雑) *uwihla* [= *ovejá*] <sup>(原)</sup> 羊

㊟ *huch'uylla runaga wasi hunt'ayoc* (小さな人間た  
が、家を離たす、)

(答) *wela* ロウソク [の明かり]

㊟ *uman mullkhuna, sikin sunkhana, puputin kuchuna*  
(頭は触むる、ヌル、お尻はキスする、ヌル、おくそは  
切る、ヌル、)

(答) *violín* ヴァイオリン

㊟ *sikin sunkhana, kunkan q'apina* (お尻はキスする

ヌル、) 首は愛撫する、)

(雑) *violín* ヴァイオリン

㊟ *umanpi manchachinayoc, phakanpi misk'ichayoc*

(頭の、ヌル、お尻、) 股の、ヌル、お尻、) 股の、

(雑) *waka* [= *vaca*] [雑] 牛

㊟ *maman chanchareta, taytan clarinete, wawankuna*  
*kaskabel* [= *cascabel*] (お母さんおや、) かつ、お父さん  
は、トリネット、赤ぢゃんは鈴の、)

(雑) *wallpa, k'anaka, chiwchikuna* ぬ、ヌル、) ぢゃ  
ん、) ぬ、)

㊟ *ñanpa hawanpi, ñanpa uranpi waka* [= *vaca*]  
*chupacha wik'h'urayashan* (狼の、) どの、頭、) どの、  
ぶ、) ぶ、) 牛の、尻尾)

(雑) *waskha* ドン

㊟ *tapaywallay tapaywallay kunallanmi pichikuchay*  
*tar niranungqa* (膝を、) 膝を、) 今、) 今、) 今、  
) 今、) 今、) 今、)

(雑) *wiñapu* 発芽した、) 今、) 今、)

㊟ *puputillayta nit'iykuway, pichikuyqa llqgsimullanga*

(私のおへそを押しえて。ペニスが出てくるでしょう)

(答) wñapu 発芽したトウモロコシ

⑩ yachaypa pagarñin, khullulumpaq q'esan (知識の生まれるところ、小さい人間の巢)

(答) yachay wasi 学校

⑪ ch'usaq tage, mana mikhuyñiq, huk'uchalla mirayñiq (倉はからっぽ、食物もない。ネズミだけが殖える)

(答) yargay 飢え

⑫ maynampas rin, rikch'ayñitaga saqentaq (行くにしても跡に残すもの)

(答) yupi 足跡

⑬ q'ellu kachul=cacho] cha, q'omer polleracha, yuraq sikicha (黄色の帽子、緑色のスカート、白いお尻)

(答) yuyu 大根菜<sup>だいこん</sup>

### 三 終わりに―変わりゆく遊びの風景の中で―

今日ペルーは、周知のとおり経済的、社会的にも危機の最中にある。人々は、農村から大都市へ、さらには首都のリマへと、家族ぐるみ、村ぐるみで移動しつづけている。

都市機能の整備はこの人口移動のペースに遅れること甚しく、スラム化を免れていないが、その都市化は、典型的な植民地都市(白人・都市化・スペイン語の優勢な)として発展してきた首都リマの「アンデス化」と形容されるほどにユニークな面を併せ持っている。一方、農村自体も急速に変貌しつつあり、都市化・近代化・情報化の波が押し寄せ、共同性、親密性の濃厚だった労働や遊びの風景もまたその影響を受けようとしている。

筆者らの経験でも、一九八四年から八六年にかけてラジカセが流行していた。人々はどこに行くときでもラジカセを携帯し、大音量にして歌などを聞いていたものである。ビデオはまだ都市の中間階級以上の家庭に普及するのみであった。ただ、八六年夏(南半球では冬)筆者らが一時滞在したボリビアのソラータという、山深い谷間のアイマラ語系の村ではケチュア語と並ぶ南アメリカの土着言語の一つであるアイマラ語のラジオ局があったり、機械好きの神父のいるフランシスコ会系の教会の施設ではときどきビデオ映画の上映会があって人々が楽しんでいた姿が、強く印象に残っている。ところが、一九九二年夏にはペルーのクスコ市近郊の農村ユカイでもクスコ市のビデオ・レンタル

店から借りてきた映画ビデオを上映して金を受け取る家庭が二、三軒も出現していた。急速にビデオ時代を迎えようとしているのである。

テレビ・ラジカセ・ビデオの普及に伴い、ペルー農村の遊びの風景もまた変貌を遂げようとしている。そして、かつての日本と同様に、なぞなぞ遊びのような口頭伝承もまた廃れていくのかもしれない。しかし、これまでスペイン語の陰で抑圧されてきたケチュア語などの土着言語が復権しつつある現在、なぞなぞのようなことは遊びの効用が見直され、意外な創造性を発揮してくれることを筆者らは期待したい。

なお、末尾ではあるが、口頭伝承には門外漢の筆者らにペルー・アヤクーチヨ地方のなぞなぞ遊びの資料を提供してくださった良友の文化人類学者の加藤隆浩さんに、この場を借りて感謝する。

〔註〕

- (1) 「imas ma ari」の短縮形といわれる [Lira 1982: 93]。なお「imayñapas, haycayñapas」をクスコ地方のケチュア語に強いて書き替えるならば「imallas, hayk'allas」となる。
- (2) 「バルトロメー・デ・ラス・カサス」アンデス地域研究所のことで、ヘアンデス口頭伝承のシリーズではスペイン語

とケチュア語の二言語併用で出版されているものが多い。

- (3) アンデス地方では今日でも未亡人は一年間は黒い服を着用して喪中であることを示す。ここから、なぞなぞでは「未亡人」は黒を象徴することになる。なお、ペルーでオリブといえば、黒っぽい熟果塩蔵ものを指すようである。例題⑦等を参照のこと。

- (4) アチョクチャはアメリカ原産のツル科植物でアンデス斜面に生育する。胞子囊の部分を煮込みやサラダにして食する。薬効豊かである。胞子囊は成熟すると自然に弾ける。ここでは、枝に連なっている胞子囊のかまぼこ状の形から連想した「形状なぞなぞ」である。

- (5) チューニョとは凍結乾燥ジャガイモのことで、アンデス高地の自然条件である昼夜間の激しい温度差を利用して加工された保存食品のことである。原料のジャガイモと比較すると、元の二分の一ないし三分の一の重量になる。ここでは「形状なぞなぞ」である。

- (6) 草刈り鎌は、形状は欧文の疑問符の形をしており、刃の部分がノギリのようにギザギザ状になっているものが多く使用される。ここでは「形状なぞなぞ」である。

なお、イチユ草は、アンデス高地の代表的な禾本科植物の総称である。

- (7) 教会の屋根を上から見ればジャガイモの種蒔きが終わった畑に似ているから、という説 [Navarro de Aguilá 1947: 47] もあるが、「Dadal」はスペイン語では「ローマ教皇」を指すから、と単純に解釈することも出来よう。

- (8) 色に加えて、アンデス住民の耳には教会の鐘の音色がロバの鳴声のように聞こえるという [Navarro de Aguilá 1947: 43]。
- (9) 高地に生育する刺草で、学名は *Pilea glabosa* という。葉は濃緑色で、茎や葉の部分にトゲのような毛状のものが密集しており、それに触るだけで猛烈なかゆみに襲われる。
- (10) キヌアはペルー原産のアカザ科植物で、トウモロコシが栽培できないような三〇〇メートルないし四〇〇〇メートル強の高地で栽培されることが多いが、最近健康食品として見直され、都市の家庭でも需要が増えるとともに、換金作物としてトウモロコシ地帯でも栽培されるようになった。種子は微細だが、蛋白質の含有量が高い。パン状にして焼くか粥状にして食する。ここでの答は、近年キヌアとともに見直されつつあるアンデス植物のキウイチャでもいいだろう。
- (11) コンドルはアンデス地方を代表する鳥であり、全長一メートル半、両翼五メートル弱に及ぶものもある。ここではコンドルの翼を広げて飛翔する姿を十字架に喩えている。
- (12) 例題④のように、ここでの答は「雲」でもいい。
- (13) アンデス地方のワイノの一曲の歌詞にもあるとおり、リンゴの種は四つである。
- (14) 例題⑤のように、ここでの答は「水」でもいい。
- (15) アンデス地方では製粉機を具備する農家は中農層ないし富農層に属するだろう。彼らは、自家用のみならず、他農家のトウモロコシ等を製粉することによりその加工賃を取得する。重要な収入源の一つになっている。
- (16) この場合、牛とは蚤やシラミを指し、イチユ草とは毛髪のことである。
- (17) 黒い牛とは蚤のことであり、足を折るとは櫛の歯がこぼれることを意味する。
- (18) 南アメリカ原産の樹木であり、学名は *Inga Fenzl* である。海拔二八〇〇メートルまでの温暖地方で生育し、白い花をつける。平べったくて長い鞘の中に黒い種が一列に並んでおり、それを包んでいる白くて多汁質の果肉の部分を食べる。甘い。
- (19) この例題は語末の音あるいは韻 (「*ra*」) を楽しむためのなぞなぞである。ケチュア語では「*ra*」は場所の接辞、「*ra*」は「すでに」という意味の接辞ないし副詞である。  
なお、ケビリナ布とは多彩色で薄物の織布のことである。物を運ぶのに利用したりする。
- (20) 修道士が人前に出ないように鶴も人間の気配を感じるとすぐに逃げ出し、またイチユ草が茂っているような荒涼とした高地を住みかとする鳥である。
- (21) この場合娘は上の方の石で、母親は下の方の石である。下の方の石は地面に据え付けてあるので底が汚れるし、他方上の方の石は懸命に転がすように上下ないし左右に動かして製粉しなければならぬ。
- (22) クイとはテンジクネズミのことであり、その鳴声からアンデス地方ではクイと呼び親しまれている。古くから食用に家畜化されてきて、アンデスの農家では室内、特に火の気のある台所で飼育されており、戸外に逃げ出さないように日光を

嫌うように疑けられている。その肉は鶏肉の味に似て淡泊である。

(23) 学名は *Cristina* sp. で、トウガラシの仲間としては最大級のものである。色は緑・黄・赤と多様であり、種は非常に辛い、皮の部分はそれほど辛くない。ペルーの家庭の食卓には欠くことの出来ない調味料の一つである。ここでは、辛さ〔*phita*〕には「辛い」という意味がある( )と形から連想するなぞなのである。例題(26)以下を参照のこと。

(24) アンデス地方の伝統的な民俗舞踏の一つで踊り手は縄のよなもの、普通は石投げ用の紐で互いに膝下の部分を叩き合う。もちろん叩かれると痛いので、踊り手は叩かれまいとして激しく跳んだり跳ねたりすることになる。遊戯的な要素を含んだ舞踏だが、その姿と音からトウモロコシを煎るときを連想させるなぞなのである。

(25) 神父が昼間正装する修道服は、ちょうど女性のスカートのように足元まで覆っている。しかし、夜になり修道服を脱ぐと下からズボンが現われる。

(26) トルティリヤといえ、トウモロコシに石灰を混ぜて作るメキシコの円盤状のものが有名だが、アンデス地方のトルティリヤはトウモロコシとジャガイモを材料にしたものである。「黒い湖」とは油を指すと思われる。

(27) アメリカ原産のサボテンで、学名は *Opuntia ficus-indica*。葉が小さい割には大きな黄色の花をつける。果実は緑色の紡錘形をしており、皮が厚い割には剥きやすく、果実はジュースで美味。

(28) 本稿では唯一のアルファベットを答にもつ例題であるが、

ケチュア語の場合母音の「o」は厳密に言えば音楽ではなく異音にすぎず、したがって三母音表記論に立つならば、またスペイン語からの借用語もケチュア語式の発音どおり表記するのならば、「obispo」は「uobispu」と表記しなければならなくなり、このなぞなぞ自体成立しなくなる。もちろん「obispo」でなければならぬ、という積極的な理由も考えにくい。ただし、「司教」と天動説を掛けているのならば別問題だが。

(29) 羊もまた牛や馬と同様にヨーロッパから伝来した家畜である。アンデス地方原産の大型家畜にはラクダ科のリヤマやアルパカがいるが、前者は荷駄用に、後者は毛刈りに、主として利用されている。

(30) チチャ酒(チチャは本来カリブ海域のアラワク語で、ケチュア語では「*chicha*」)はトウモロコシを発酵させてつくるが、アンデス地方でも古くから伝承されており、今日では日常的にも共同労働にも重要な役割を担っている。チチャ造りの最初の工程は水に漬けておいたトウモロコシ粒をトウモロコシの乾いた葉を敷きつめた箱のようなものに入れて上から覆っておき、毎日水を掛けてやると一週間ほどで発芽する。この発芽したトウモロコシ粒を「*wirapu*」と呼び、この工程から連想して作られたなぞなぞが例題である。さて、もやし状になったトウモロコシ粒は戸外の日当たりのよいところで自然乾燥させた後、この頃までには周囲には甘酸っぱいアルコール臭が漂ってくるが、石臼でつぶし、煮立て、濾過し、数日

をかけて発酵させると、出来上がる。トウモロコシ・ビールの地酒と考えればよい。大粒のトウモロコシの産地として有名なクスコ市近郊のウルバンバ地方では一度に相当量を作ることになるので、普通自家だけでは消費できないので、棒の先にナイロン袋等をつけて戸外に掲げておき、チチャ販売中の目印とする。

- (31) クスコ地方ではユユは葉っぱの部分を食べ、大根の部分は食用ではない。葉っぱが食用には適さなくなった頃に引き抜いてみると、白い大根の部分が出来ている程度のものである。

#### 参考文献

Alvarez Quispe, Luis (1988)

*Ghanasya ruia simi yachana*. Lima.

青木芳夫 (一九八七a)

「ペルー・プーノ県の二重言語・二重文化教育」『奈良大

学紀要』第一六号

青木芳夫 (一九八七b)

「ペルーの二重言語教育の二類型」『奈良史学』第五号

IPA [Instituto de Pastoral Andina], Equipo de Quechua (n. d.)

*Runasiñi : Qosqo Qallau*. 25 lecciones. Cusco, IPA.

Lira, Jorge A. (1982)

*Diccionario kechhua-español*. 2a. ed. Bogotá, SECA.

三原幸久 (一九八四)

「チリで伝承されている三三三のなぜなぜ」『大阪外国語

大学學報』第六七号

三原幸久 (一九九〇)

「チリの言語遊戯」江口久編『ことは遊びの民族誌』東京、大修館書店。

Navarro de Aguilá, Victor (1947)

“Las adivinanzas quechuas”, *Revista del Instituto*

*Americano de Arte*, año V, vol. II.

パロミーノル青木アンヘリカ、青木芳夫 (一九九一)

「ケチュア語／スペイン語／日本語小辞典」『資料ラテン

アメリカ』第一七号、京都、ラテンアメリカ資料センター。

Tauro, Alberto (1987)

*Enciclopedia ilustrada del Perú*. 6 vols. PEISA, Lima.